

WUOC2014@チェコ共和国・オロモウツ 遠征報告書

横浜市立大学3年 砂田 莉紗

1、はじめに

早いものでもう二ヶ月近く前のことになります。帰国後、何度か早く報告書を書き上げようとしたものの、なかなかあちらで受けた衝撃を思い出すことに耐えきれず、完成が遅くなってしまいました。自分がユニバーに参加すると決めたときから本戦（バンケット含む）を終えてまでを振り返り、誤解を恐れずに正直な言葉で報告しようと思います。稚拙な表現も多々あるかと思いますが、どうぞよろしくをお願いします。

2、ユニバーを目指し始めた時期と理由

私がユニバー出場を考えはじめたのは、現在横浜市 OG 1 年目の大河内恵美さんと仲良くなってからです。時期でいうと2年生の10月くらいからでしょうか。1年生の2月からオリエンテーリングに取り組み始めた私は、それからオリエンテーリングに熱中し毎週のように山へ出かけ続け、徐々にオリエンができるようになってきたと錯覚し始めた頃です。恵美先輩は私の2学年上、前回のスペイン・アリカンテでのユニバー2012に出場されており、挑戦することを勧めてくれました。恵美先輩や同期の宮川早穂さん、海外でオリエンテーリングすること、また『日本代表』といった様々な「憧れ」からじんわりと目指すようになっていきました。（ただインカレがその目の前にあったので基本はそちらを見ていました。）

3、選抜後～出国までの準備

4月に富士の勢子辻で行われた選考レースでは微地形に対応することができず選考対象タイム直下でした。しかし他に候補者もいなかったのもあり、今後の成長に期待ということでの選抜でした。選手選抜されてから出国までの4ヶ月間、JOA合宿に5回参加し、基礎技術を中心に練習してきました。2年生の夏から使ってきたサムコンをプレートに持ち替え、海外では特に必要とされる苦手な直進への意識を持ちました。運営者も参加者も日本トップクラスが中心のJOA合宿では、常に最下層にいる自分に嫌気が差しながらも「このままではヤバイ！！」と気持ちを奮い立たせて参加していました。出国前のオリエンの調子としては東大会 W21A 1位、ロングセレ5位と自分にしてはまあまあ調整できているのだと思い込むようにしていました。

4、現地での生活とトレーニングキャンプ

そしてついに出国。チェコの夏は日本のように湿気はなく涼しく快適でした。一日に一回はスコールがざあっと降るので、あっ、と思ったらすでに洗濯物はびっしょりなんてことも。2週間泊まった綺麗な学生寮は自室のように使え、とても大きなハイパースーパー（！）も近くにあり、トレキャン中は午前中山でトレーニング（どこもバスで1時間以内、しかもトレ後には水とチョコバーまで支給！）、午後はフリーで各自市街地やスーパーに行ったり、昼寝をしたり、ランニングしたりとオリエンティアにとっては夢のような暮らしができました。

トレキャンではスプリントリレーのモデルを除いて全て参加しました。一回目のミドルとロングのモデルトレインはわりと日本的なトレインで「海外トレイン」に身構えていた私は少し安心し、「まだ現地入りしたば

かりで本戦まで時間はある、モデルとして見るより普通にオリエンのトレーニングがしたい」と時間いっぱい山にいました。しかし二回目のミドルのモデルは真っ平らでヤブく、直進がなかなか成功しない上にツボりまくりました。そうやって徐々に不安を覚えだした自分とは反対に、世界大会の出場経験が豊かな他のメンバーの余裕あるモデイベへの取り組み方をみてさらに不安になり、むやみにトレーニングをした結果、疲労を溜めてしまいました。さらにトレキャン期間は想像以上に時間があり、パソコンも持ってきていなければ本も持っていない（持ってはいたのですが、既読であったことを忘れて持ってきてしまったのです・・・）、多くのオリエンティアが興じるランプを大の苦手とする特異体質な私は、暇を持て余しすぎて鬱っぽくなるという、ダブルパンチで非常事態に陥りました。が、結局遅れて現地入りした高橋美誉さんと同室になったことで、随分リラックスできるようになり危機を乗り越えることができました。

5、 本戦レース

私はロング、スプリント、2軍リレー2走を走りました。結論からいうと非常に厳しいものでした。以下、それぞれの感想です。

◆ ロングは8.3km (UP460m) を130.48分で84位/87人。

距離、アップ共に初体験のしんどさ。ロングの地形がはっきりしたトレインならまだ日本的なオリエンができるはず、とエントリーしたものの想像以上のごつきに見事に惨敗。海外選手に技術のみならず体力でも全く歯が立ちませんでした。選んだルートは悪くなかったようなのですが、それをきちんとたどれないという、それ以前の話でした。

◆ スプリントは2.0km (UP115m) を21.10,5分で74位/92人。

日本では横国キャンパスと近所のパーク0くらいしかしたことがなく、かつ全く自信のない種目でしたがよく聞く「海外のスプリントは面白い」に影響され、エントリー。なんと動物園から住宅街に抜けるコースでした。一般的に言われる海外スプリントとはちょっと違った印象でしたが、とても楽しかったです。このコースはアップが100m以上あるスプリント??でしたが、長い石畳の坂でエストニアの選手を追い抜けたこと（その後の平ら道で抜かれましたが）、スイス、スウェーデンの選手に颯爽と追い抜かれ1レグ分もパックできなかったこと、日本ではまずお目にかかれない住宅の目の前に設置されたポスト、全てが新鮮で一番楽しい競技でした。レースも珍しく大きくツボらなかつたのが大きかったです。

◆ リレー2走5.4km (UP60m) は65.12分でたぶんビリ。

リレーのトレインはその前日のミドルと同じトレインで、「真っ平らで白い。でもやぶいところはやぶくて、かつ水系だらけ」なトレインでした。直進ができないと話にならない場所で、見事に爆散しました。オリエンテーリングのオの字もできませんでした。ルートをあまり覚えていないことから完全にパニックになっていたのだと思いますが、よく帰って来れたなと思います。帰ってきた後は本当に自分がや

ってきたことが全く通用しなかったことにショックを受け呆然としていました。世界の壁以前に、自分がいかにオリエンテーリングができないかをまざまざと見せつけられた、一番厳しいレースでした。

6、まとめ

正直完全なる実力不足で走るレースは楽しいとはなかなか思えませんでしたし、実際にしんどかったです。でもこの経験をしていなかったら、自分がどれだけオリエンテーリングができないのかを知ることはできませんでした。またレースを振り返るとどうしてもネガティブな文章になってしまいましたが、目標であった完走ができたことは自分で評価しようと思います。ユニバーに行く前も、行っている間も、行った後も、どこかもやっと整理がついていない自分がいますが、ユニバーに行き行って良かったとは確実に思っています。JOA 合宿の充実したメニューをユニバーメンバーや JWOC, WOC 選手と一緒に練習したことで成長できました。最近のインカレでも上位を世界大会経験者が占めることが多いのも納得しました。どこが、とは断言できませんが、何か日本のオリエンテーリングしか知らなかった自分とは変わった部分がある気がします。そしてそれをやはり残されたインカレで発揮したいです。もし私の後輩で世界大会に興味を持った人がいたら、行くチャンスがあるのであれば是非行った方がいいと言います。きっと大河内さんも同じような気持ちだったのではないかと勝手に想像しています。

また「日本代表」について。語弊があるかもしれませんが、マイナースポーツであるからこそ、私ほどの実力でも出場させてもらえました。(オリエン界では本当の(?)日本代表はWOC選手だと理解しています。その選抜は厳しいことも。)きっとこのくらいの初心者にも毛がはえたような選手をいくら学生選手権とはいえ代表選手に選ぶことはどうなのと思う方もいらっしゃるんだと思います。「日本代表の安売り」と揶揄されているのを聞いたこともあります。こんなマイナースポーツをやっていないければ日本代表だなんてなれません。オリエンテーリングのマイナー性のことなんて知らない家族や友人は、とても喜んでくれ、応援してくれました。両親はよくわかってないはずですが、ライブリザルトまで見守ってくれました。私自身もジャパンウェアに励まされて走ることができました。世界トップのスイスの選手は速い、遅いに関係なくとてもフレンドリーに接してくれました。バンケットでは色んな国の選手と一緒にあって踊って楽しい夜を過ごすことができました。全部、ユニバーの日本代表になっていなければ経験することができませんでした。そういった意味でもマイナースポーツであるオリエンテーリングをやっていて良かったと思いました。日の丸は大きなモチベーションになりました。

最後になりましたが、お仕事の傍ら JOA 合宿を運営してくださった強化委員会の皆様、支援・応援して下さった KOLC の OBOG 現役の皆さん、心配しながらも送り出してくれた家族、そしてなにより 3 週間もの間一緒にオリエンテーリングに励んだユニバーメンバー・コーチの皆にとっても感謝しています。ありがとうございました。